

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	哲学 I	
科目基礎情報							
科目番号	0115			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書：なし						
担当教員	奥 貞二						
到達目標							
哲学という言葉の由来, 宗教・文学・科学との関係, 哲学的思惟, ソクラテス, デカルト哲学の特徴, 哲学史の重要性を理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	哲学の誕生, 哲学の日本での経過と歴史に触れ, 何を学ぶ学問かを応用的に理解する。			哲学の誕生, 哲学の日本での経過と歴史に触れ, 何を学ぶ学問かを基本的に理解する。		哲学の誕生, 哲学の日本での経過と歴史に触れ, 何を学ぶ学問かを理解できない。	
評価項目2	哲学と他の学問(文学, 宗教, 科学)の類似点と相違点を理解し, 取分け科学との関係を応用的に理解する。			哲学と他の学問(文学, 宗教, 科学)の類似点と相違点を理解し, 取分け科学との関係を基本的に理解する。		哲学と他の学問(文学, 宗教, 科学)の類似点と相違点を理解し, 取分け科学との関係を理解できない。	
評価項目3	哲学史を学ぶ必然性を理解し, 自ら哲学することができる道を応用的に模索する			哲学史を学ぶ必然性を理解し, 自ら哲学することができる道を基本的に模索する		哲学史を学ぶ必然性を理解し, 自ら哲学することができる道を模索できない	
評価項目4	技術者を志すものが, 他者を理解し, 世界と自分を問う重要性を応用的に理解する。			技術者を志すものが, 他者を理解し, 世界と自分を問う重要性を基本的に理解する。		技術者を志すものが, 他者を理解し, 世界と自分を問う重要性を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	哲学とは何かについて基本的な理解を得ることを目的とする。						
授業の進め方・方法	<授業の内容> ・すべての内容は, 学習・教育目標 (A) <視野>, <技術者倫理> に対応する。 ・授業は講義形式で行う。講義中は集中して聴講する。 ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。						
注意点	<到達目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」を網羅した中間試験, 定期試験を1回ずつ実施し, 目標の達成度を評価する。各「到達目標」に関する重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で, 目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。 <学業成績の評価方法および評価基準>中間試験, 期末試験結果の平均値を成績とする。但し, 中間試験の評価で60点に達していない学生については再試験を行い, 再試験の成績が中間試験の成績を上回った場合には, 60点を上限として中間試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。期末試験については, 再試験を行わない。 <単位修得要件>中間試験, 期末試験の結果, 学業成績で60点以上を取得すること。 <あらかじめ要求される基礎知識の範囲>「倫理・社会」で学んだ基礎知識が必要である。 <レポート等>特に無し。 <備考>その都度取り上げる参考文献は, 目を通しておくことが望ましい。本教科は後に専攻科1年で学習する「技術者倫理」の基礎となる教科である。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバスの説明 哲学の勉強を始めるにあたって				
		2週	<哲学>という言葉の由来		1. <哲学>という言葉の由来を理解できる。		
		3週	<より哲学的である>とは何か		2. <より哲学的である>を理解できる。		
		4週	哲学と宗教や文学との比較		3. 哲学と宗教・文学との類似性と相違点を理解できる。		
		5週	哲学と科学		4. 哲学と科学との類似性と相違点を理解できる。		
		6週	哲学と科学		4. 哲学と科学との類似性と相違点を理解できる。		
		7週	哲学の愛の側面				
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	哲学の原型(1) ソクラテスの場合		5. 哲学的思考を理解できる。		
		10週	哲学の原型(2) デカルトの場合		5. 哲学的思考を理解できる。		
		11週	哲学的探求		5. 哲学的思考を理解できる。		
		12週	哲学的思惟		6. 哲学的思惟の特徴を理解できる。		
		13週	哲学固有の問題		7. 哲学固有の問題を理解できる。		
		14週	西洋哲学の特徴		8. 哲学史の重要性を理解できる。		
		15週	哲学史を学ぶ理由		8. 哲学史の重要性を理解できる。		
		16週	期末テスト				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し, これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして, 自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。		3	
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	0	100